

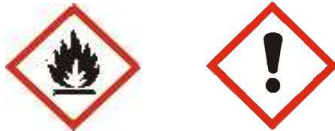
# 安全データシート

作成日2014年11月10日  
改訂日2016年6月1日

## 1. 化学物質等及び会社情報

|              |                                       |
|--------------|---------------------------------------|
| 製品名          | ガムとりZERO                              |
| 製品コード        |                                       |
| 会社名          | 日本マルセル株式会社                            |
| 住所           | 〒116-0002 東京都荒川区荒川2-23-3              |
| 電話番号         | 03-3803-1751                          |
| 緊急時の電話番号     | 03-3803-1751 (担当: 技術開発部)              |
| FAX番号        | 03-3805-0039                          |
| メールアドレス      |                                       |
| 推奨用途及び使用上の制限 | チューイングガム、シールのり跡の洗浄。定められた用途以外に使用しないこと。 |

## 2. 危険有害性の要約

|                    |                                                                                     |        |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| GHS分類              | 引火性液体                                                                               | 区分3    |
| 物理化学的危険性           | 他の物理化学的危険性項目については分類対象外、区分外又は分類できない                                                  |        |
| 健康に対する有害性          | 急性毒性 (経口、経皮)                                                                        | 分類できない |
|                    | 急性毒性 (吸入: 蒸気)                                                                       | 分類できない |
|                    | 急性毒性 (吸入: ミスト)                                                                      | 分類できない |
|                    | 皮膚腐食性/刺激性                                                                           | 区分2    |
|                    | 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性                                                                     | 区分2A   |
|                    | 呼吸器感受性                                                                              | 分類できない |
|                    | 皮膚感受性                                                                               | 分類できない |
|                    | 生殖細胞変異原性                                                                            | 分類できない |
|                    | 発ガン性                                                                                | 分類できない |
|                    | 生殖毒性                                                                                | 分類できない |
|                    | 特定標的臓器・全身毒性 (単回曝露)                                                                  | 分類できない |
|                    | 特定標的臓器・全身毒性 (反復曝露)                                                                  | 分類できない |
| 環境に対する有害性          | 吸引性呼吸器有害性                                                                           | 分類できない |
|                    | 水生環境有害性 (急性)                                                                        | 区分3    |
|                    | 水生環境有害性 (慢性)                                                                        | 分類できない |
|                    | オゾン層への有害性                                                                           | 分類できない |
| ラベル要素<br>絵表示又はシンボル |  |        |

注意喚起語  
危険有害性情報

警告  
引火性液体および蒸気  
皮膚刺激  
重篤な眼への刺激性  
水生生物に有害

注意書き 【安全対策】

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。  
取扱い後はよく洗うこと。  
環境への放出を避けること。  
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。  
熱/火花/裸火/高温のもの<のような着火源>から遠ざけること。一禁煙。  
裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
火災を発生しない工具を使用すること。

【救急処置】

皮膚に付着した場合 : 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。  
皮膚を流水/シャワーで洗うこと。  
多量の水と石鹼で洗うこと。  
皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。  
眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
医師の診断/手当てを受けること。

【保管】

換気の良い涼しい場所で 施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。  
情報なし

国・地域情報

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別  
一般名混合物  
洗浄剤

| 化学名又は一般名                                                                                                                  | 化学式                                           | 濃度(%) | 官報公示整理番号<br>(化審法・安衛法) | CAS番号    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-------|-----------------------|----------|
| ブ <sup>レ</sup> ビ <sup>レ</sup> ン <sup>グ</sup> リ <sup>コ</sup> ル <sup>モ</sup> メ <sup>チ</sup> ル <sup>エ</sup> ー <sup>テ</sup> ル | C <sub>4</sub> H <sub>10</sub> O <sub>2</sub> | 10-20 | (2)-404               | 107-98-2 |
| グリコール系溶剤                                                                                                                  | 非公開                                           | 非公開   | あり                    | 非公開      |
| 石油系炭化水素溶剤                                                                                                                 | 非公開                                           | 非公開   | あり                    | 非公開      |
| 界面活性剤                                                                                                                     | 非公開                                           | 非公開   | あり                    | 非公開      |

## \* 労働安全衛生法

名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令18条の2別表第9)

・ブ<sup>レ</sup>ビ<sup>レ</sup>ン<sup>グ</sup>リ<sup>コ</sup>ル<sup>モ</sup>メ<sup>チ</sup>ル<sup>エ</sup>ー<sup>テ</sup>ル (政令番号 第21号)

## 4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪い時は、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
回復が遅い時は、速やかに、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石けんで洗うこと。  
皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

医師の診断／手当てを受けること。  
口をすすぎ、無理に吐かせないこと。  
医師の診断／手当てを受けること。予想される急性  
及び遅発性症状

データなし

最も重要な兆候及び症状

データなし

応急処置をする者の保護

データなし

医師に対する特別注意事項

データなし

## 5. 火災時の措置

消火剤

粉末、二酸化炭素、泡。 散水、噴霧水は大規模火災時のみ。

使ってはならない消火剤

棒状注水

火災時の特有の危険有害性

引火性液体および蒸気。

特有の消火方法

容器は高温で破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分にとる。  
火災によって、刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。  
火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は、可能な限り  
風上から行なう。

消火を行う者の保護

危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
消火作業の際は、適切な空気呼吸器と化学用保護衣を着用すること。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急措置

直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

環境に対する注意事項

関係者以外の立入りを禁止する。  
作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。  
環境中に放出してはならない。

回収、中和

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法

乾燥土、砂等の不燃材料で吸収する。あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。  
漏出物を取扱う時に用いるすべての設備は接地する。

・ 機材二次災害の防止策

排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。  
すべての発火源を速やかに取り除く。禁煙。消火剤を準備しておく。  
火花を発生しない安全な用具を使用する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

局所排気装置・全体換気

安全取扱い注意事項

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気装置、全体換気を行なう。

火気厳禁。

換気の良い場所で使用すること。

容器は丁寧に取扱い、使用後は密栓する。

眼に入れないこと。

ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はよく洗うこと。

『10. 安定性及び反応性』を参照。

接触回避

保管

技術的対策

取扱う場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

保管場所には危険物貯蔵設備(耐火構造、不燃材質、防爆機器)を設ける。

混触危険物

『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管条件

日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。

火気、熱源から遠ざけて保管すること。

換気の良い涼しい場所で保管すること。

容器包装材料

金属製容器等

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度  
許容濃度（ばく露限界値  
、生物学的ばく露指標）  
設備対策

設定されていない  
アロレンゲリウム/メチル（20-30%含有） TLV-TWA 100ppm2009年版、ACGIH）  
その他の成分については、設定されていない。  
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
この製品の近くに高温、発火源となるものを置かない。火気厳禁。  
この製品を貯蔵ないし取扱う作業場には、洗眼・洗顔設備を設置すること。

保護具  
呼吸器の保護具  
手の保護具  
眼の保護具  
皮膚及び身体の保護具  
衛生対策

適切な呼吸器保護具を着用することが望ましい。  
適切な保護手袋を着用する（ビニル製手袋等）。  
適切な保護眼鏡を着用する（ゴーグル型、側板付き普通眼鏡型等）。  
適切な保護衣、保護面を着用する。  
取扱い後はよく洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

形状  
外観  
臭い  
pH  
融点／凝固点  
沸点、初留点及び沸騰範囲  
引火点  
爆発範囲  
蒸気圧  
蒸気密度（空気＝1）  
比重（密度）  
溶解性  
オクタール／水分配係数  
自然発火温度  
分解温度  
臭いのしきい（閾）値  
蒸発速度（酢酸ブチル＝1）  
燃焼性（固体、ガス）  
粘度

液体  
無色透明  
特異集  
データなし  
データなし  
データなし  
40℃以上  
データなし  
データなし  
データなし  
データなし  
0.804（20℃）  
水に分散  
データなし  
データなし  
データなし  
データなし  
データなし  
データなし  
データなし

10. 安定性及び反応性

安定性  
危険有害反応可能性  
避けるべき条件  
混触危険物質  
危険有害な分解生成物

通常の条件において安定。  
引火性のガス/蒸気が発生するおそれがある。  
爆発性のガス/空気混合物を生成するおそれがある。  
裸火、火花のばく露。  
高温面との接触。  
酸化剤。  
燃焼した場合、一酸化炭素を含む有害で刺激性のガス、ヒュームが発生する。

11. 有害性情報

皮膚腐食性／刺激性  
眼に対する  
重篤な損傷／刺激性  
特定標的臓器／全身毒性  
単回暴露

区分2の成分の濃度合計が10%以上であるため「区分2」とした。  
区分2Aの成分の濃度合計が10%以上であるため「区分2A」とした。  
区分2（中枢神経）の成分がカットオフ値10%以上含まれるため「区分2」とした。  
急性毒性（経口、経皮、吸入）、呼吸器感作性、皮膚感作性、生殖細胞変異原性、生殖毒性、発がん性、特定標的臓器/全身毒性（反復曝露）、吸引力呼吸器有害性については、データ無しまたはデータ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性  
水生環境有害性（急性）  
水生環境有害性（慢性）  
残留性・分解性  
生体蓄積性  
土壌中の移動性  
オゾン層への有害性

区分2の成分が10%未満含まれているため「区分3」とした。ただし、毒性不明な成分も50%以上含まれている。  
データ不足  
データなし  
データなし  
データなし  
データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄は関連法規ならびに地方自治体の基準及び地域の条例、規則に従う。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこへ委託処理する。  
排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託処理する事。  
空容器等を廃棄する場合は、水洗いなど内容物を完全に除去した後処分する。

**14. 輸送上の注意****国際規制****海上規制情報**

UN No.

Proper Shipping Name.

Class

Packing Group

Marine Pollutant

**航空規制情報**

UN No.

Proper Shipping Name.

Class

Packing Group

**国内規制****陸上規制情報****海上規制情報****航空規制情報****特別の安全対策**

I M Oの規定に従う。

情報なし

HYDROCARBONS, LIQUID, N. O. S.

3

III

情報なし

I C A O / I A T Aの規定に従う。

情報なし

HYDROCARBONS, LIQUID, N. O. S.

3

III

消防法の規定に従う。

船舶安全法の規定に従う。

航空法の規定に従う。

運搬に際しては輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどがないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷くずれの防止を確実にする。

『7. 取扱い及び保管上の注意』に従うこと。

該当法規に従い、包装、表示、輸送を行なう。

**15. 適用法令****労働安全衛生法**

該当する。（「3. 組成、成分情報」参照）

および 危険物・引火性のもの（施行令別表1-4）

**化学物質排出把握管理****促進法（P R T R法）**

該当しない

**毒物及び劇物取締法**

該当しない

**消防法**

危険物 第4類第2石油類・非水溶性

**火薬類取締法**

該当しない

**船舶安全法**

引火性液体類（危規則第2、3条危険物告示別表第1）

**航空法**

引火性液体G（施行規則第194条危険物告示別表第1）

**その他の規制**

内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）：含有しない

学校環境衛生基準検査物質：含有しない

シックハウス・シックスクール 関連室内空気汚染物質：厚生労働省指針値該当14物質成分は含有しない

**16. その他の情報****引用及び参考文献**

JIS Z 7253 化学物質安全データシート

G H S 混合物分類判定システム（経済産業省2015年3月公開）

原料メーカー発行の安全データシート

記載内容は、現時点で入手できる資料、データに基づき作成しており、新規知見により改訂されることがあります。  
 また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いの場合は、用途や用法に適した安全性の評価と対策を実施の上ご利用下さい。記載内容は情報の提供であって、安全性を保証するものではありません。